

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2 年 7 月 27 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200965		
法人名	株式会社サルート		
事業所名	グループホームとまとえばにし		
所在地	広島市中区江波西二丁目8番6号 (電話) 082-208-1277		
自己評価作成日	令和2年7月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200965-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1 番 8 号
訪問調査日	令和 2 年 7 月 27 日 (月)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・入居者様には、小さなことでもできる事を見つけ、家事・掃除・食事作り等を手伝っていただき、家庭での生活を感じていただけるように支援している。・季節を感じていただける行事を、毎月企画して行っている。・身体機能が低下しないように、近所を散歩したり、日々のレクリエーションで体操を行うとともに、入居者様の目標にあわせた個別運動や生活リハビリを行っている。・ケアプラン作成において、必ず担当者会議を開催し、入居者様のニーズ抽出や目標設定を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームとまとえばにしは、住宅地と高層マンション、そばには大きな川があり、河川敷を散歩する事も出来る所に位置している。又、高速道路がすぐそばに通っていて、側道があり移動には便利である。リビングには、職員が活けた花が飾られていて季節を感じてもらえるようにしている。法人理念「働きやすい職場を作るための8ヶ条・職員基本姿勢」を掲げ、一人ひとりがその人らしく家庭的な環境の中で安心して暮らして頂けるよう支援している。整理整頓された清潔なホーム内には、至る所に職員のアイデアあふれる飾りつけや掲示物を見る事ができ、ほのぼのとした温かい雰囲気を作っている。利用者の重度化への対応に取り組みまれ、家族や主治医、看護師らと連携して、終末期のケアに取り組んでいる。チームワークが良く、職員の主体性が尊重される職場環境は、離職者も少なく、生き生きとした職員の表情を見る事が出来る。様々な工夫による職員間の情報の共有は、家族が「安心できる」と評価している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員全員が理念を念頭においてサービスに従事できるよう、毎日朝礼で唱和して確認している。	理念は各ユニットの入り口に掲載していて、「法人理念・働きやすい職場を作るための8ヶ条・職員基本姿勢」を毎日朝礼で、職員全員で唱和している。ミーティング時に理念について話し合い、共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地元の町内会に加入している。地域の認知症カフェに参加したり、近くのお店に外出に出かけているが、新型コロナウイルスの影響を受け、今春から自粛している。しかし、可能な限り近隣の散歩は継続して行っている。	町内会に加入しており、回覧板も回って来て、地域の行事等が良く解かる。ボランティアで心笑一座の方が来訪され、歌やギター・ウクレレで利用者の方と心とむ、ひと時を過ごされている。職員は地域との付き合いの大切さを理解し、日々支援に取り組んでいる。コロナによる感染拡大等があり、地域の方との交流は控えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人全体で、地域の介護に関する相談を随時受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	会議にてホームの取組み状況や評価結果を報告しており、構成員からも評価いただいている。構成員からの意見聴取も行い、サービス向上に反映させている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催され、家族・地域包括支援センター職員・町内会長・家族・管理者・社長・本部長等、幅広く参加している。会議では、事業所の取組みや利用状況等を伝え、参加者から意見・評価・助言を得て、ホームの運営に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議等でホームの取組み状況を報告したり、必要に応じて相談援助を依頼している。	市担当課とは、書類提出時に直接出向いた時、電話等で相談や情報交換を行い、指導や助言を受けている。運営推進会議には、地域包括支援センター職員が参加しており、事業所の実情や取組みを、直接伝える事が出来て、意見交換も図られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部や内部の研修により、全ての職員が理解している。緊急やむを得ない事由がある場合は、同意書作成の上実施、月1回経過観察再検討会を実施していく事について周知している。また、現在身体拘束は行ってないが、身体拘束検討委員会を3か月に1回定期的に開催し、他事業所の事例を検討し、身体拘束防止についての意識向上に努めている。	定期的実施される身体的拘束検討委員会で、他事業所の事例等を挙げて検討し、スピーチロックを含め、職員で振り返りを行い、気付いた時は注意している。「身体拘束をしないケア」について正しい理解をし、実践に繋げている。転倒等のリスクのある利用者については、会議等を通じて話し合い、ケアの工夫の検討を行って実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部の研修会を設定。職員全員が虐待は許されることではないという意識を持っており、虐待が発生しない環境をつくっている。今後は外部研修があれば職員を参加させる予定である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部の研修会を実施。必要に応じて、個別に相談に応じている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居のしおりやQ&A集で説明したり、実際施設を見学いただいたうえで、契約・解約に関する説明を行っている。なお、契約の際には、施設長又は管理者が契約書・重要事項説明書等の内容を十分説明した上で、契約締結を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情窓口・意見箱を設置するとともに、ご家族のホーム訪問の際には職員が必ずお声をかけ、不満や苦情を受け付ける体制を整えている。受け付けた際には苦情処理委員会にて改善を図るとともに、運営推進会議にて報告している。(利用者代表・家族代表も出席している)	運営推進会議や日頃の面会時においても、家族の意見を伺うようにしている。又、日常の中で入居者の発した言葉を大切にケアに活かせるようにしている。職員はミーティング等で情報提供し、問題発生の際は、早期解決を行っている。「とまとばたけ」の便りを年4回家族に送付し、利用者の様子を知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員面接や運営会議、全体ミーティング等で具体的に話し合い、取り組んでいる。	定期的な運営会議や日頃の業務中での職員の気付きや意見を聞くようにしている。また、日々の業務中に職員の個別の意見を聞いている。職員の様々な声を傾け、意見・提案を検討し、運営に反映させる体制に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年度当初に職員各々が取り組み目標を書類にて提出し、面接等で進捗を確認している。また、資格取得に向けての取り組み・助言を行っている。		
13		○職員を育てる仕組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	計画的に外部研修に参加させたり、施設内では技能委員会が年間研修計画を立案・実施し、研鑽に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者の交流会(法人本部長が役員就任)に参加し、他の事業所の状況や取り組みについて意見交換を行ったり、見学会・勉強会等を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居面接時、本人に生活歴・ご自宅での生活習慣・趣味・嗜好・要望等聞き取りをし、面接シートに記録のうえ情報を把握し、ユニットスタッフで情報を共有するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学时や入居面接・面会時、ご家族に話を聞かせていただいたり、来所時には声かけを積極的に行っている。入居初期の段階では、定期的にご家族と電話連絡を取っている。ホームページやメールも活用している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前面接にて本人・ご家族の様子や意向を確認するとともに、必要に応じて法人内の居宅介護支援事業所ケアマネージャーに情報提供させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事・炊事等身の回りのできることは一緒に行うようにしたり、食事を一緒に食べたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会等で来所された際に、本人の状況を率直にお話させていただき、ご家族と一緒に相談したり考えたりしている。また、ご家族が来所したり本人の様子を見ることができるよう、外出行事やホーム内行事に積極的にご家族に参加案内している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルスへの感染対策として一時的に面会を中止していたが、基本的には友人等との面会や外出を自由に行っていた（ご家族に事前了承をとったうえで）。	家族や親戚、友人等がいつでも気兼ねなく面会に訪れる事が出来るように努めている。職員は面会者に笑顔で礼儀正しく接し、本人の暮らしぶり等を伝え、お茶等の接待を行い、「また来よう」と思ってもらえるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が関わり合えるよう一緒にレクや家事をしたり、リビングの席位置を決めたり、またトラブルが発生しないよう職員が配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて電話連絡をしたり、訪問したりしている。また、退居後の利用事業所に対して情報提供を行ったり、ご家族の相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活での本人との関わりの中で、本人のニーズを引き出すよう心がけると共に、ユニットミーティング等で情報共有・検討している。また、カンファレンスの前に職員全員に「気づきシート」を記入してもらい、日々の状態やニーズの抽出に努めている。	意思疎通や認知症状の部分で把握が難しい場合は、普段の生活状況や生活歴や御家族からの情報を収集している。「ホームでの生活」では、希望や好きな活動等はもちろん、嫌な話題等も把握し、「気づきシート」に記録して、利用者の尊厳に配慮し職員ミーティングで話し合い、本人本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や入居前の介護サービス提供担当者等から情報をいただくようにしている。面会等で来所された知人等からも、差し支えない程度でお話を伺ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	行動記録表・健康チェック表・アセスメントシート等を用いて、状況把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・ご家族双方のニーズを聴取するとともに、「気づきシート」を利用して職員の意見やアイデアをカンファレンスに活かし、ケアプランを作成している。	主治医や看護師、利用者、家族より聞き取った情報を基にアセスメントを行い、介護計画を作成している。介護計画は6ヶ月毎に見直し、状況に変化があった場合は随時、見直している。「気づきシート」には、毎日実施された状況や変化を記載し、関わった職員の気付きや問題点もその都度記入し、毎月のミーティングでケース見直しを実施し、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の行動記録表や業務日誌申し込み欄にて情報共有を行うと共に、ユニットミーティングやカンファレンスで協議している。また、「ケアプラン実施状況表」を毎日記入し、プランを実行した上で月末に評価している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族が希望されれば、宿泊や食事が本人と一緒にできたり、外出支援や車椅子の貸し出し等も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	徘徊のある方については地元交番に事前をお願いしたり、消防訓練については毎年消防署立会いのもと行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ホームの協力医療機関主治医の診察を基本に、専門外や異変等あれば他医療機関を紹介いただいたり、ご家族様の希望される医療機関に受診いただいている。また、主治医よりご家族様に直接説明いただくこともある。	本人や家族の納得を得て、利用者は協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診を受けている。他科は職員又は、家族が対応して受診の支援をしている。月に2回、必要に応じて歯科医師が往診している。受診結果は記録して職員間で共有し、家族には電話や面会時に報告している。夜間や緊急時には事業所の看護師や協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるよう支援している。	

グループホームとたとえばにし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	業務委託している訪問看護師が、グループホーム職員と連携のうえ支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談できる医療機関を近隣にいくつか持っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化対応については、入居時、重要事項説明書にて説明を行うとともに、日常的な状態変化等で受診の際にも都度方針について協議している。今後、看取り期に入られたときは、ご家族が希望されれば医師、看護師と連携してホームでの看取りを行う予定である。	入居時に「重要事項説明書」で重度化した場合に、ホームでの出来る事・出来ない事を説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から事業所の管理者・看護師が主治医に相談し、対応出来ない場合は、次の施設や病院へ繋ぐ支援を行っている。家族の希望があれば、主治医とも相談し看取りを行う予定である。	看取りケアに取り組みされる方針を出され、今後、職員に対する「終末期の在り方」の研修をしっかりと実施し、不安の無いように取り組みされる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急救命講習を定期的受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を行い、うち1回は所轄消防署から指導いただいている。運営推進会議の中でも、地域との連携について協議中である。	年2回の避難訓練を行っている。そのうち1回は、消防署員に立ち会って頂き指導を得ている。避難訓練時には、防災器具の点検も行っている。消火器や火災通報装置の使い方の確認、避難経路を確認している。水害時の対応を実践で体験し、今後の対策等しっかりと検討している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人及びご家族の権利を尊重するための10ヶ条を定める(契約書にも記載)とともに、法人内の「個人情報保護ポリシー」をもとに、個人情報は慎重に扱うよう徹底している。	ご利用者様お一人お一人を尊重し、一人ひとりに合わせた介護を行うように、心がけている。不適切なケアがないように研修を実施し、会話の中でも利用者のプライバシーを傷つけないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人個々の残存機能について定期的にモニタリングを行い、その人らしさを尊重した支援に努めるとともに、本人の思いや希望が出しやすいよう傾聴に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	決まった生活プログラムやマニュアルはなく、その日の個々のペースに合わせた生活を考えている。		

グループホームとまよばにし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	化粧や装飾品装着についても支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎月1～2回「手作り食事会」を設け、メニュー考案から調理・片付けまで利用者様と一緒に実施している。月1回程度出前を取り、お好きな物を選んで食べていただいている。外食は現在自粛している。普段から、できる利用者様には準備や片付け等一緒に行っている。	配食業者を利用して、御飯とみそ汁は事業所で調理している。利用者一人ひとりの体調に応じて、ミキサー・きざみ食等の形状にして提供している。利用者は、職員と一緒に、食器拭き・洗い・片付け等出来る事をしている。月1回は「手作り食事会」を行い、おやつ・柏餅・和風ロールケーキ等作り、楽しまれている。出前(ピザ・モスバーガー・お好み焼き・中華・寿司等)を月1回取り寄せ、食す事を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量とも個々に記録して状況を把握している。また、トロミ剤、ソフト食(介護食)も必要に応じて活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、職員声かけのもと歯磨きを行っている。また、協力歯科医師に定期的に口腔チェックをお願いし、歯科衛生士からの指導も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者様個人ごとに排泄の有無を記録しており、個々の排泄パターンを把握し、必要に応じてトイレ誘導を実施している。また、その時々状態変化に合わせて、使用するパット類や介助方法を変更している。	排泄チェック表を基に、入居者個々に応じた排泄パターンを把握している。また、トイレ誘導の時間を見直したり、コスト軽減や、不快感のないようパットの見直しを図る等して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防のため、食事(水分摂取)や運動に気を配っている。ひどい便秘の利用者様には、医師の処方のもと服薬にて管理している。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	シャワー浴も含めた入浴を、日曜を除く毎日行っており、利用者様の希望もできるだけ聞いている。	入浴は週3回(日曜日以外)で、職員と会話を楽しみながら、ゆっくり入浴出来るように支援している。室温を調整し、本人の好みの湯加減とし、くつろいで入浴出来るように支援している。本人の希望や体調に合わせて、シャワー浴、部分浴、足浴、清拭等を行っている他、利用者の状態によって2人介助での対応とする等、安全に配慮している。入浴したくない人には無理強いをせず、時間をずらしたり、言葉かけの工夫をして、一人ひとりが入浴を楽しむ事が出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日常的に居室やソファで自由に休んでいただいている。また、生活習慣や身体状況に合わせ、必要な休息の時間を設けている。		

グループホームとたとえばにし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者の処方内容や薬効については薬情をファイルし、職員間で周知している。また、服薬内容変更の際は、業務日誌や申し送りにて周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の希望に応じた外出を計画したり、散歩や買物にも積極的に出かけている。家事を手伝う事が日課となり、人の役に立つことを実感することで充実感を感じていただく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日用品の買物や散歩、医療機関への受診など支援している。可能であれば、ご家族に外出をお願いすることもある。外出計画立案の際に、利用者の意見を取り入れるようにしている。	天気の良い日には、散歩・買い物(スーパー・デイリーストアー)等に行くようにしている。お花見は平和公園に出かけている。宮浜温泉・ソレイユに外出に出かけている。ベランダでの日光浴、ドライブ、家族の協力を得ての外出、外食、墓参り等、一人ひとりのその日の希望にそって、家族や地域の人と協力しながら、戸外に出かけられるように支援している。近所のお好み焼き屋さんや、認知症カフェに出かけている。現在はコロナ感染予防で外出は出来ていない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望があれば対応できるようにしている。(金額についてはご家族とも相談のうえで)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば対応できるようにしている。また、絵手紙クラブの作品を、年賀状や暑中見舞としてご家族様に郵送している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な間取りとしており、室内には観葉植物や季節ごとの生花を飾っている。日当たりのよいリビングから台所まで見渡すことができ、一体的な生活空間としている。	明るいうリビングに観葉植物や季節の花を飾り、利用者と一緒に作った季節の壁面飾りや利用者の習字等を飾っている。テレビやソファー、食卓テーブルや椅子を使いやすく配置している。対面式キッチンからの炊飯の匂いや、汁物の調理の音等で生活を感じる事が出来る。加湿器を置き、温度や湿度、換気に注意し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂以外の場所にソファを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に、今まで使っていた家具や生活用品の持込をお願いしている。	衣装ケース、机、イス、ソファー、テレビ、仏壇、時計、衣類、本、雑誌、ぬいぐるみ等、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、家族写真や本人の写真や作品等を飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	

グループホームとまとえにし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共用部分や浴室、トイレ内に手摺を設置したり、浴室内の滑り止めマット、車椅子対応のバリアフリー設計の施設で、できることは自分でしていただけるよう配慮している。		

V アウトカム項目1ユニット			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホームとまとえばにし

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目2ユニット			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

グループホームとまとえばにし

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームとまとえばにし

作成日 令和2年 7月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	入社時に「新人研修マニュアル」を使って研修をしているが、それぞれの職員の理解度、知識、実力に差がある。	入居者様それぞれ必要な支援と、介護計画の内容、医療面についても理解し、職員全員が統一した支援ができる。	・リーダー、サブリーダーが意思統一し、職員一人一人に適切な指導を行う。 ・医療面、介護技術等については、定期的に研修を行う。 ・必要に応じ個別指導する。	12か月
2	33	ご家族の希望に応じホーム内での看取りを行う事になったが、経験のない職員が多く、不安が大きい。	職員全員が、ホームで看取りことの意義を理解し、ご本人、ご家族の意向に沿って、安心して最期を迎えられるように支援できる。	・看取りケアの研修 ・外部研修に参加 ・看取り指針の内容を理解し、看取り支援に生かす。 ・看取りの事前、事後のカンファレンスを行う。	12か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。